



## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> <b>カナダ</b>	北アメリカ州に位置するこの国は、世界第2位の広大な国土を持ちながら人口密度が非常に低いことが特徴です。広大な土地を活かした大規模な機械化農業により、小麦などの穀物生産が盛んに行われています。また、石油（オイルサンドなど）や天然ガスといった豊富なエネルギー資源の輸出が盛んであるほか、隣接するアメリカ合衆国との密接な経済関係により機械類や自動車の製造・輸出も産業の大きな柱となっています。
問2	<b>答え 1</b> <b>16世紀以来のフランスによる進出と、その後のイギリス系住民の移住により、両方の文化圏が形成された歴史を尊重するため</b>	カナダは歴史的にフランスとイギリスの両国によって開拓・支配された時期があり、現在もフランス文化が色濃い地域とイギリス文化が主流の地域が併存しています。国家の統合を維持するために、両方の言語を平等に扱う二言語併記が制度化されています。また、カナダは現在もイギリス国王を元首とする立憲君主制を維持しています。
問3	<b>答え 1</b> <b>広大な国土において、大型機械を用いた大規模な経営を効率的に行うため</b>	アメリカの農業は「企業的農業」とも呼ばれ、大型機械を導入して少人数で広大な農地を管理します。単一の作物を集中的に育てることで、機械化による効率化とコスト削減を図る仕組みが「適地適作」を支えています。
問4	<b>答え 2</b> <b>北アメリカ州</b>	北アメリカ州は、広大な領土を持つ一方で人口密度はアジア州などと比べて低いという特徴があります。しかし、高度な技術開発や豊かな資源、大規模な産業背景により、地域全体の経済規模を示す国内総生産（GDP）は世界最高水準に達しています。
問5	<b>答え 1</b> <b>地殻変動が現在も続いている新しい山地であるため、標高が高く険しい山々が連なり、地震や火山活動が活発である。</b>	環太平洋造山帯は「新期造山帯」に分類されます。これは、比較的新しい地質時代に造山運動（山を作る動き）が始まり、現在も進行している地域を指します。そのため、エベレストなどを含むアルプス・ヒマラヤ造山帯と同様に、山が鋭く高く、地震や火山などの自然災害が起こりやすいという因果関係があります。対照的に、長年の浸食で平坦になったものは古期造山帯や安定陸塊と呼ばれます。
問6	<b>答え 1</b> <b>アメリカ合衆国が輸出総額の約7割以上を占めており、地理的な近接性から特定の国への依存度が高い。</b>	カナダの輸出貿易は、地理的に隣接し、かつてNAFTA（北米自由貿易協定）などの経済連携を強めてきたアメリカ合衆国に大きく依存しています。実際の統計でもアメリカ合衆国が輸出全体の約7割から8割を占めることが多く、これはカナダ経済がアメリカ合衆国の景気動向に大きく左右されやすい構造であることを示しています。
問7	<b>答え 1</b> <b>温暖な気候に加え、広大な土地や安価な労働力が確保しやすかったため。</b>	サンベルトへの産業移転は、雪の多い北東部「フロストベルト」に比べて、暖房費が抑えられる温暖な気候、新しい工場を建てるための広大な用地、そして比較的安価な労働力が揃っていたことが大きな要因です。また、政府による軍事・宇宙関連の投資がこの地域に集中したことも、先端産業の発展を後押ししました。
問8	<b>答え 1</b> <b>サンフランシスコ郊外のシリコンバレーを中心に、航空宇宙産業やコンピュータ関連の先端技術産業が急速に発達した。</b>	アメリカでは1970年代以降、従来の鉄鋼業や自動車工業といった重工業に代わり、コンピュータや電子機器などの先端技術産業（ハイテク産業）が成長しました。その中心地の一つがカリフォルニア州のサンフランシスコ郊外にある「シリコンバレー」であり、この地域を含む北緯37度以南のサンベルト全体で新しい産業が発展しました。五大湖周辺やニューヨークなどは北緯37度よりも北に位置するため、サンベルトには含まれません。